

清水の

豪援隊かわら版



清水ヒデキ

豪援隊隊長・

弁護士・移民コンサルタント

(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

＜今月のジョーク！パート1＞

最近、母から受け取ったメール(その1)

駅まで車で迎えに来てもらうにあたって、いつごろ着くかと言う俺の問いに対し、「あと5分くらいどつくよ」エーっ、こわいよ、母ちゃん。。。

最近、母から受け取ったメール(その2)

最近携帯電話を最新機種に変えた母よりのメール

「携帯を最新型に変えた。この歳でメールなるものに挑戦するのは少々骨が折れるが、これもぼけ防止と思ひ、お前に練習がてらメールする。案外簡単なものである。」

。。。という「件名」のメールが母ちゃんから届いた。

(ジョーク集より)

＜今月の視点 その1＞

景気の翳り

オーストラリア経済の減速が囁かれています。と言っても、オーストラリア経済の好況を支えていたのは資源業界。そして、その資源業界を支えていたのは中国経済。そのため、中国が風邪をひくとオーストラリアは風邪をひくどころか、肺炎になって、その後瀕死の状態になりかねないのが現在のオーストラリアかもしれません。

オーストラリア労働市場

オーストラリア経済の問題は、拙者がニュースレターで何度もお伝えしている様に人件費の高さにあります。現在の政権は労働党。そのため、労働者最良の政策をどんどん推し進めます。その結果、最低賃金がどんどん底上げになるので、オーストラリア労働者にとってはありがたい話になります。しかし、雇用主にとってはありがたい話ではありません。コストプッシュ型インフレ状態においては、利益の圧迫につながります。そのため、雇用主は、高い賃金を支払って従業員を雇用し続けるより、事業規模を縮小し、そうした従業員を解雇する方が利益率を確保できるという事になります。勿論、経済においては縮小パターンになるため不景気と判断される事につながります。雇用主の生産能力よりも、労働者の賃金をベースに考えると雇用が促進されなくなります。それが後述の現政権の墓穴へとつながります。カフェのウェイトレスの時給が4000円近くすると、さすがに雇う方は大変です。

労働党の移民政策

移民政策においても労働党の場合、基本的に海外からの労働力は良しとしません。海外からの労働者を入れれば、その分自国の労働者の働きの場が奪われます。そのため、ここ数年数こそ減ってはおりませんが、ビジネスビザの申請は条件が厳しくなってきております。以前は比較的、誰でも取れたビジネスビザは、今では選ばれた人のみに与えられる権利となりました。現在のビジネスビザ保持者の平均年収は8万ドル以上、安い外国人労働者確保のビザではなくなりました。

＜今月の注目記事＞

Australia is too expensive for business says Gina Rinehart(オーストラリアはビジネスするには高すぎる。) Courier Mail 5 Sep 2012

Gina Rinehart という女性をご存知でしょうか？知っている人は、知っているという人物ですが、女性としては世界一お金持ちといわれているオーストラリアの資源会社の経営者です。

その Rinehart 女史、最近下記コメントを発表してマスコミにぎあわせたばかりでした。「オーストラリア人の大半は裕福な人たちに対して嫉妬感をもっている。(お金持ちになりたいのなら)パブでお酒飲んだり、タバコ吸ったりして遊んでばかりおらず、もっと働いたほうがいい。」これには、組合、財務省大臣、そして総理大臣も猛反発。女史のこの発言に対してはあのパーマー氏も、少し違うんじゃないの、と発表する始末。

その Rinehart 女史が、つい最近もオーストラリアにおける企業コストが高すぎることに言明。アフリカでは\$2で一日働く労働者がたくさんいるということをコメントしました。これをきっかけに、ますますギラード首相との対立がニュースの話題になっています。もともと、オーストラリアの会社経営者は労働党支持ということは少ないですし、カーボン税による影響で資源業界におけるギラード首相の評判は最初から良くありません。そして、ここにきて中国経済の減速による資源業界の景気の冷え込みがささやかれ始めており、ある資源会社は高コストのオーストラリアのオペレーションを捨てて、低コストでの生産が可能なアフリカに拠点を移しているのが現状です。高給取りの労働者を抱えすぎた資源会社が、その高コストでの生産に採算が取れず、国内の開発プロジェクトをあきらめ始めているというまさに拙者の今月の視点でも書いたような高労働コストの悪循環に陥っています。そのため、資源業界からしますと、これだけオーストラリアの雇用を作ったのにカーボン税は押し付けられるし、経済政策もぼつとしない現政権にはとことん愛想がつかたという状況下での女史のコメントとなったようです。

ギラード首相も反発して「オーストラリアはアフリカではない」、と言っておりましたが、世間の反応はそういわれても仕方ないというのがオーストラリア国民の受け止め方のようです。

<今月の視点 その2>

自己主張

子供達の学校からの宿題・課題を見ていると、こちらの学校ではプレップ(0年生)からクラスの前で課題の発表をしなければならない事が多々あります。

当方、日本で唯一その様な経験をした覚えがあるのは、小学生時代、母の日の作文をクラスの前で発表させたくらいで、とても恥ずかしい思いをした事を覚えています。それが、今は小学生の課題発表にはパワーポイントで題材を発表し、原稿の丸読みは禁じられているので、パワーポイントのスライドを見ながら要点をまとめて発表しなければなりません。パワーポイントなんて、筆者が社会に出るまでありませんでした。当方の大学での発表会も、その頃は OHP。透明なシートに発表内容を書き込んだりが普通でした。我々が現在普通に仕事で行っている事を小学生低学年で、既に行っているそうです。

教育熱心(?)で、子供の事は奥さんにお任せ状態の筆者。恐る恐る奥さんに、学校で他に何をやっているか聞くと、既に授業では生徒全員に iPad が渡され、それを使っている授業も行っているとか。(おいおい、オレだって去年くらいから iPad 使い始めた程度なのに。)通りで、子供達のが使い方をよく知っているはずです。

こうして幼少期からのパブリックスピーキングや、プレゼンテーションのトレーニングの賜物で、こちらの人は兎角自己アピールをする事が上手い。というよりも、よく慣れている。「慣れこそ、物の何とやら」という具合で、そのためか学校でも、社会でも、こちらの人は自分の意見をきちんと述べることが上手です。どの様な内容をどの様な方法で述べるか、他人のそういった自己アピール能力も非常に厳しく評価されます。そのため、こちらの政治家や、有名人、スポーツ選手は、どの様なコメントをするか、スピーチをするかで、彼ら達の能力も問われます。そのため、日本では大人気のサッカーのベッカム選手は人気はあるけども、それが人々からの尊敬に繋がらないのは彼の少し残念なスピーチ能力にあると言われていいます。彼のアクセントと話し方は、残念ながら一流選手ではないというのが、こちらの人達の思うところでは。

さて、今回の Rinehart 女史のスピーチも、ある意味では事業主としては納得できることで、的を得ており、間違っているのではありませんが、自分の意見をアピールするという意味ではマイナスになってしまった様です。説得力のあるスピーチは話すタイミング、状況、話しの仕方、言葉使い、それらを上手く使いこなす必要がある訳で、本当は格闘技の間合いに近い物があります。そういう意味では、これからは外国人と対等に議論が出来て、勝負のできる日本人が育っていくことを期待します。

<今月のジョーク！パート2>

その1 後部座席の友人

車をバックさせたとき。後部座席の友達に「後ろ大丈夫？」と聞いたら、「うん、快適」と返事が返ってきた。えっ。。。

その2 お母さんいる？

親戚がたずねてきたときのこと。5歳くらいの女の子が出てきたので、「お母さんいるかな？」と尋ねたところ、「いらな一い。」と元気な答えが返ってきた。(ジョーク集より)

<今月の名作に触れよう>

宮澤賢治「雨ニモマケズ」

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり
そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな萱ぶきの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行ってこわがらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめるといい
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにでくのぼーと呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
わたしはなりたい

<今月の名言>

置かれた場所で咲きなさい。

咲けない時は根をはりなさい。(渡辺 和子)



このかわら版、またはピザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ALC ビザコンサルタント

QLD 州以外の方にも、ご利用しやすくなりました！

ゴールドコースト事務所
シドニー 事務所

住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227
住所: 24 Lewis Way Newington NSW 2127

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

E mail: info@alcvisa.com Website: www.alcvisa.com

東京事務所 (担当: 西川・松本)

〒170-0013
東京都豊島区東池袋
4-25-12 池袋今泉ビル 6F

電話: +81-3-3985-6003

Fax: +81-3-3985-6009